第１学年　社会科　学習指導案

Ⅰ　単元名　　世界の諸地域　　アフリカ州　–国際的な支援からの自立に向けて–

Ⅱ　単元の目標

1　アフリカ州の個々の生徒の理解が正しいものか間違っているものかを明確にし、日本との相違について、気候面、産業面において理解する。（知識技能）

2　今後、大規模な市場として期待されるアフリカ州において、日本企業が市場開発できる分野について、アフリカ州の課題を踏まえて自分の意見を提案している。（思考判断表現）

3　アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題解決に向けて、日本の関わりを踏まえて主体的に追究する。（主体的に学習に取り組む態度）

Ⅲ　単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習の取り組む態度
・アフリカ州の気候が日本と大きく違うこと、それらのよい影響と悪い影響について理解している。 ・アフリカ州の産業の特色について、日本と比較してその問題点をさまざまな資料から読み取っている。	・アフリカ州の課題について、資料から探し、原因をふまえて文章にまとめている。 ・大規模市場として期待されるアフリカ州に日本のどの製品が売れるかを予想し、その理由を、アフリカ州の現状をふまえ、まとめている。	・アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題解決に向けて、日本の関わりを踏まえて主体的に追究しようとしている。

Ⅳ　単元の構想

1　生徒について

（１）実態

①「社会が好きか」という質問には半数の生徒が「好き」と答える。学力差も大きい。学習の取り組み方も細かく説明してもなかなか進まない生徒が多いが、わからない生徒にわかる生徒が説明したり、手助けをしたりと、みんなで学習に取り組もうとする態度が身についている。

②「社会が好きか」の質問には、ほとんどの生徒が「きらい」と答える。授業には意欲的で積極的に発言する生徒も多い。学習の取り組み方はほとんどの生徒が１度細かく説明すると課題に取り組める。しかし思考力があまり高くなく、思いつきでまとめてしまう生徒が多い。

③「社会が好きか」の質問には、半数程度が「好き」と答える。授業には比較的積極的で、発言する生徒も多い。課題解決学習では、その内容によって取組にばらつきが見られる。話し合い活動には意欲的に参加する生徒が多く、課題解決が１人では難しい生徒にも、課題について説明したり、手助けをしたりと、サポートする姿も多く見られる。

（２）単元と生徒

これまで「世界の諸地域」で授業を行った「アジア州」、「ヨーロッパ州」は比較的生徒にも身近な地域について学習を進めてきたが、今回の「アフリカ州」は生徒にとって身近ではない地域である。

＜事前アンケート「アフリカについて知っていることを３つあげてみよう（１番に思い出す順と１位から３位まであげるように指示)」＞

（回答結果）

アフリカ州に関係のある内容のみ正答とし、回答者数を分母に割合を算出（%）(　) は１番数の多かったもの

	１位	２位	３位	回答数
①	５０ （エジプト）	６２．５ （暑い）	４１．６ （ピラミッド）	24 人／29 人
②	７５ （象・砂漠）	８５．７ （暑い）	７１．４ （暑い）	28 人／28 人
③	８０．９ （砂漠）	６１．９ （象）	６１．９ （暑い）	21 人／28 人

学級によって差はあるが、どの学級も３つ目となると、なかなか正しいアフリカ州の知識を回答することは難しいと推察される。ここからも、アフリカ州は生徒にとって身近な地域とはいい難いということが伺える。

（３）単元について

中学校学習指導要領社会編においての地理分野の目標は、「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」としている。

「世界の諸地域」の学習は日本が先進国という立場で、国際社会とどうつきあっていくかを考察する場面が多い。しかし、アジア州の経済的な発展や北アメリカ州やヨーロッパ州の国際的な地位の変化など世界情勢は近年大きな変化を見せており、これまでと同様のアプローチでは、日本だけでなく、国際社会の発展に寄与できる人材育成は困難である。つまり、先進国と発展途上国という上下の関係ではなく、それぞれの地域の状況を理解し、対等に近い立場で良好な関係性を築く素養を身につける必要がある。

そのために、アジア州では、東アジアの学習で中国や韓国に日本の産業がどれだけ依存しているかを知り、今後良好な関係を築き、互いに経済発展していくために日本人としてやるべきことを考察した。また東南アジアの学習で日本での外国人労働者の増加に着目し、日本の人手不足解消だけでなく、日本の技術力の継承と東南アジアの経済発展や日本経済へのメリットについて考察した。

本単元「アフリカ州」では国際的な支援について考察する学習になっている。しかし、現在

のアフリカ州は大きく変貌しつつあり、大規模な市場として非常に注目されている。アフリカ州の人口は 2025 年までに世界人口の１／４まで拡大する（2015 年では 16%）という予測がある (*1)。またアフリカの資源輸出は減少しており、内需型経済成長に転換する動きを見せている。実際ヨーロッパ、中国の企業進出が進んでいる。さらに訪日外国人のアフリカからの人数も 2009 年と比較して 2019 年は 2.5 倍に増加しており（*2)、今後日本製品の販路拡大が期待される。

そこで本単元では、アフリカ州の現状をふまえ、日本が優位になる単なる市場としてアフリカ州をとらえるのではなく、アフリカ州の経済発展を見据えた支援を考察させる。これにより、アフリカ州と日本が上下の関係ではなく、対等な関係であることが両地域の発展に必要なことに気づかせ、今後の両地域だけではなく、世界の進歩発展に寄与できる人材育成を目指す。

（４）指導の工夫

①学習課題解決過程の工夫

３学級の学習課題達成率の比較（課題難易度を３段階に分類）

地理「第１章　世界の姿」の見開きページごとにある課題の達成度を数値化

学級／難易度	簡単	中位	難易
①	89.7%	86.6%	70.3%
②	80.2%	91.9%	79.6%
③	98.2%	84.5%	93.7%

課題の難易度が上がると、達成率は減少することがわかる。しかし、学級によって差が多きことも見えてきた。そこで学級によって本時での「課題の提示」～「課題解決学習」に取り組むまでの課程を次のように工夫する。

※学力差が大きい学級には成績下位生徒に配慮し意見がでやすいように事前に提示した。

②学習課題の提示

アフリカの国々に日本製品を買ってもらうとしたら何をおすすめするか

<u>実際に現在売れている製品を提示</u>

<u>日本製品で、他の外国で売れているものを提示</u>

③個々に考察

２～３製品をあげて、その理由をまとめる

④グループ活動

⑤発表

※売れるものを思いついてもその理由があいまいなものにならないように配慮、

その後の話し合いでも理由を重視して話し合いを行うように支援

①学習課題の提示

アフリカの国々に日本製品を買ってもらうとしたら何をおすすめするか

実際に現在売れている製品を提示

②個々に考察

２～３製品をあげて、その理由をまとめる

理由について個別支援、参考資料を提示

③グループ活動

④発表

（５）評価

本時の授業は、単元の学習課題である「アフリカと日本がお互いに発展していくために、日本ができることは何か」を考察しまとめる上で、ポイントになる時間である。本時でより深く日本とアフリカについて考察することで、アフリカの国々が抱える課題や、日本が得意とすること、できることについて気づき、それを生かした単元の学習課題解決がどの生徒もできると考える。

その結果、アフリカ州両方について考察できること、日本とアフリカ両者にとってメリットがある内容になることをふまえた学習課題解決に導くことができたか、生徒のまとめの内容を分析することでその効果を検証したい。

Ⅴ　指導計画

１　単元の指導計画（本時３時間／４時間）

時数	学習課題 （学習のねらい）	評価			
		知・技	思･判･表	主体的	評価基準
1	アフリカ州の自然環境や文化,歴史には，どのような 特色が見られるか､自分が考えていたアフリカ像と比較してまとめてみよう （アフリカ州の自然環境、文化、歴史と日本との相違点を説明できる）	○		○	・日本とアフリカの相違点がわかる ・アフリカの中の違いをまとめる
2	アフリカの産業には,どのような特色や課題があるか､日本の産業と比較しながら考えてまとめてみよう （アフリカ州の産業の特徴を説明できる）	○	○	○	・アフリカのプランテーションを説明できる ・アフリカの産業の特徴を「プランテーション」「モノカルチャー」に注目して説明する
3	アフリカの人にお勧めする日本製品について話し合い､自分の意見を		○	○	・アフリカの課題をふまえて、アフリカの人にお勧めする

時数	学習課題 （学習のねらい）	評価			
		知・技	思･判･表	主体的	評価基準
	まとめてみよう （アフリカ州で売れる日本製品について､アフリカ州の課題をふまえて考察することができる）				日本製品を考察する
4	アフリカと日本がお互いに発展していくために､日本ができることは何か、まとめてみよう。 （アフリカ州､日本相互の発展のために日本人としてできることを考察できる）	○	○	○	・アフリカの都市化、人口増加、地域格差、情報化等に注目し、お互いに Win-Win な関係になるために、今の日本ができることをまとめる

2　本時の学習

（1）ねらい

アフリカ州で売れる日本製品について、アフリカ州の課題をふまえて考察することができる。

（2）展開と評価

学習活動	教師の支援（○）と予想される生徒の反応（・）	留意点
導入 １０分	○前時の復習とアフリカの現状の確認 ①熱帯や乾燥帯など生活に工夫が必要な地域 ②植民地となった歴史、現在への影響 ③モノカルチャー経済、GNI 低位国が多い ④内戦や政治不安な国が多い ○アフリカ州への各国の動きの確認 ⑤ヨーロッパや中国企業の進出が進む ⑥アフリカ各国での製品製造は難しい（資本、原料、技術）でも期待もある ○日本の経済の現状 ⑦先進国はすでに貿易での関係は確立 ⑧今後の市場として開拓の可能性が高いアフリカ州（他の国も進出も多くなってきている）	・地図（①、②）や資料（③～⑧）を活用して確認 （資料） ③GNI（地図帳） ④外務省グラフ ⑤アフリカ進出日系企業実態調査 p22 ⑥　⑤p19 ⑦　写真アフリカ各国における輸入相手国トップ国

<table>
<tr><th>学習活動</th><th colspan="2">教師の支援（〇）と予想される生徒の反応（・）</th><th>留意点</th></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">〇最後に簡単なクイズを実施</td><td>⑧jica 資料
・最後にクイズを行うことを示唆し、大量の資料を集中して見られるように配慮する</td></tr>
<tr><td rowspan="4">展開１
１０分</td><td colspan="2">課題「アフリカ州の人々に”日本”を売り込もう（アフリカの人にお勧めする日本製品・技術・習慣・教育などを考えてみよう）」
〇課題解決までの説明（学習の流れ）
① 個人でアフリカ州のどんな人々（資料提示）に、日本のどんなもの（形のないものでもよい）をおすすめできるかを考え、ロイロにまとめる。
② 個人で２～３個考える。</td><td rowspan="2">資料
アフリカビジネスの最新動向 p 21～24</td></tr>
<tr><td>①・③</td><td>②</td></tr>
<tr><td><u>〇実際に現在売れている製品を提示</u>
<u>〇日本製品で、他の外国で売れているものを提示</u>
〇２～３個の日本製品をあげて、そう思う理由をまとめる</td><td><u>〇実際に現在売れている製品を提示</u>
〇２～３個の日本製品をあげて、そう思う理由をまとめる</td><td>資料
アフリカビジネスの最新動向 p １２
海外で評価の高い日本製品（apog.jp）
・まとめはロイロノートに行う</td></tr>
<tr><td>・個々に考察</td><td>・個々に考察
・意見がなかなか出ない生徒には、<u>日本製品で、他の外国で売れているものを提示</u>する
<u>〇理由について個別支援、参考資料を提示</u></td><td>・参考資料は教科書、地図帳を提示
（ネットはできるだけ使わないように指示）</td></tr>
</table>

学習活動	教師の支援（〇）と予想される生徒の反応（・）	留意点
展開２ ２０分	③ 班（グループ）内で発表し、聞いた生徒は意見についてのよい点を考えて、伝える。 ④ 班の意見として２つに絞る。 ⑤ 班でおすすめ商品２つを、どんな人になぜお勧めできるのかを考えて発表 ・班ごとに話し合い活動を行う 〇アフリカの現状、問題点等にも配慮して考察するように助言 ・ロイロノートで班の意見をまとめる ・発表する	
終末 １０分	〇今のアフリカの人々が求めているものは何だと感じたかについてまとめる 〇振り返り	

（３） 評価

グループでの活動とアフリカの課題をふまえて、勧めるものや人、その理由について自分なりに説明できる。

参考文献

*1 「アフリカビジネスの最新動向」,日本貿易振興機構，2021.3

*2 「国籍訪日来客数（2003 年～2021 年）」,日本政府観光局